

原子力委員会「政策評価部会」御意見を聴く会一発言要旨(メモ)

2008 年 3 月 31 日(月) 仙台国際センター

齋藤昭子

(財団法人みやぎ・環境とくらし・ネットワーク事務局長)

テーマは「放射性廃棄物の処理・処分」です。

1. 原子力基本法・原子力政策大綱・原子力委員会の情報等について

- 原子力政策大綱の策定過程に寄せられたのべ 1094 名 2475 件の意見を生かすこと
決定プロセスに国民がかかわる、制度的に国民の声を反映させる仕組みの確立を
- 国民、関係者の不安や懸念、疑問に丁寧に対応するリスクコミュニケーションの継続
不断の情報開示をすすめる実質的な意見交換の場となるように
- 「原子力委員会/政策評価部会」、「原子力安全委員会/特定放射性廃棄物処分安全調査会、
放射性廃棄物・廃止措置専門部会」、「高レベル放射性廃棄物処分懇談会」、「総合資源
エネルギー調査会原子力部会放射性廃棄物小委員会」、「地球環境保全・エネルギー安
定供給のための原子力のビジョンを考える懇談会」等情報の関係性を分かりやすく

2. 放射性廃棄物の処理・処分について

特に原子力発電所から出る放射性廃棄物の処理・処分については、当初「トイレのない
マンション」と悪名がつくほどだったし、今はリスクを将来世代に負わせることと認識

- 六ヶ所村再処理工場の本格稼働への懸念・疑問が払拭できない
プルトニウム抽出は必要か・放射性物質の環境放出は・MOX 燃料は有効か・コストは
- 再処理で出る高レベル放射性廃棄物等の最終処分(地層処分)について
地震国日本のリスクを前提に情報を国民に開示し国民的合意を図ること
安全管理リスクへの国の責務を明確にすること、国の不作為への不信は根深い
- 最終処分地選定の公募について
自治体を対象にした公募方式は地元市民・住民との信頼が最大の課題—共同責務
国は原子力発電所からの放射性廃棄物をできるだけ減らす方向をめざすべきである

3. 最後にテーマの背景にあるエネルギー問題について

- エネルギー供給計画は、資源の有限性、安全管理・環境問題へのクリアー、社会的に
容認できるコストで確保できるか等多面的な要素について検討・評価すべき
- 原子力発電の CO₂ 排出低減への寄与は明らかであるが、国内では原子力偏重の政策
ではなく、代替エネルギー開発特に地域分散型のエネルギー社会実現の促進を
- エネルギーと環境を大切にする社会を創りあげるために、エネルギー浪費型でない生
産や生活のあり方を、個人・社会全体の各レベルで具体的に検討し実施していくこと